

栃木県競技力向上基本計画



令和5(2023)年3月

第77回国民体育大会栃木県競技力向上対策本部

【目 次】

はじめに ～計画改定の趣旨～	・ ・ ・ ・ ・ 1
第 1 章 改定の基本的な考え方	
1 計画の位置付け	・ ・ ・ ・ ・ 2
2 改定のポイント	
3 計画の期間	
第 2 章 これまでの取組の成果と課題	
1 組織体制の整備・拡充	・ ・ ・ ・ ・ 3
2 選手の発掘・育成・強化	
3 指導者の養成・資質の向上	・ ・ ・ ・ ・ 4
4 競技力向上のための環境整備	・ ・ ・ ・ ・ 5
第 3 章 栃木県の競技力向上のための具体的な取組	
1 計画の目標	・ ・ ・ ・ ・ 6
2 競技力向上のための 4 つの柱	
3 具体的な取組	
I 競技力の維持・組織運営体制の強化	
II 次世代アスリートの発掘・育成・強化	・ ・ ・ ・ ・ 7
III 指導者の養成・資質向上	・ ・ ・ ・ ・ 8
IV スポーツ医・科学の活用	・ ・ ・ ・ ・ 9
第 4 章 競技力向上基本計画の推進体制	
1 推進体制	・ ・ ・ ・ ・ 10
2 競技団体における強化の取組	

はじめに ～ 計画改定の趣旨 ～

第77回国民体育大会栃木県競技力向上対策本部(以下「対策本部」という。)では、平成27(2015)年3月に策定(平成29年4月一部改定)した「栃木県競技力向上基本計画(Tochigi Victory Plan)」に基づき、第77回国民体育大会いちご一会とちぎ国体(以下「とちぎ国体」という。)での天皇杯・皇后杯獲得を目指して本県の競技力向上に向けた対策を講じて参りました。その結果、とちぎ国体では男女総合成績・女子総合成績ともに第2位という成績を残すことができました。また、県では平成28(2016)年2月に策定した「栃木県障害者スポーツ選手等育成・強化基本計画(TOCHIGI CHALLENGE PLAN)」に基づき、本県障害者スポーツの一層の振興を図り、第22回全国障害者スポーツ大会いちご一会とちぎ大会「以下「とちぎ大会」という。」で過去最多のメダルを獲得するなど、とちぎ国体・とちぎ大会(以下「両大会」という。)での本県選手団の活躍は県民に感動や勇気を与えました。

現在、本県では、「スポーツを通じて夢や感動を共有しスポーツで人生を豊かにする“とちぎ”の実現」を基本理念とする「栃木県スポーツ推進計画2025」に基づき、「する」「みる」「ささえる」といった多様な形でのスポーツ参画人口を増やし、県民総スポーツ社会の実現を目指す取組を進めています。また、令和5(2023)年3月に策定する「とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略」に基づき、県、市町、スポーツ団体、民間企業等で構成するスポーツコミッションを設立し、大規模大会・スポーツ合宿等の誘致や県内外の交流人口の拡大等に取り組むこととしています。

一方、対策本部では、国内大会はもとより、オリンピック・パラリンピック競技大会を含む国際大会等で躍動する本県ゆかりのアスリートを数多く輩出することが、県民の誇りや感動につながり、子どもたちに大きな夢を与えることから、両大会の開催を通じて得られた数々の成果を一過性のものとしないう、**「スポーツ・レガシー」**を継承しながら、効果的に競技力向上を図るため、前計画での取組を生かすとともに、社会や時代の変化に即して必要な見直しを行い、栃木県競技力向上基本計画を改定いたしました。

今回改定する栃木県競技力向上基本計画では、「栃木県スポーツ推進計画2025」における施策の柱の1つである「国民体育(スポーツ)大会・全国障害者スポーツ大会や国際大会等で活躍する選手の育成」を念頭に置きながら、栃木県重点戦略「とちぎ未来創造プラン」の重点的取組として位置付ける「両大会を契機とした高い競技力の確保」に取り組んで参ります。

第1章 改定の基本的な考え方

1 計画の位置付け

前計画は、とちぎ国体における天皇杯・皇后杯の獲得という目標を達成するため、本県の選手の育成・強化や指導者の養成及び環境整備等に関する基本的な考え方、方向性を示した指針として策定し、対策本部が中心となり関係団体と連携・協力しながら各種競技力向上事業に取り組んできた。

本計画は、両大会終了後の安定した競技力の確保及び本県の恒久的なスポーツの振興を目指し、競技スポーツを推進していくための具体的な指針として位置付ける。

2 改定のポイント

両大会での好成績を一過性のものとせず、本県において持続可能な競技力向上を図っていく必要がある。前計画に基づく取組の多くは有意義なものであり、以下4つのポイントを中心に必要な見直しと改定を行うことで、継続的に競技力の向上に取り組む。

(1) 国民体育（スポーツ）大会のみにとらわれない競技力向上

国民体育（スポーツ）大会のターゲットのみに焦点を当てた強化ではなく、幅広い世代や競技種目の競技力向上も視野に入れ、オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会等をはじめとする各種国際大会等で本県ゆかりのアスリートが活躍できるよう支援する。

(2) 持続可能なアスリート発掘・育成・強化システムの確立

県内の競技団体が継続して競技力の向上を図ることができるよう、指導者養成と次世代アスリート育成を両輪とする持続的なアスリート発掘・育成・強化システムの確立に対する支援に努める。

(3) スポーツ医・科学の活用

効果的に競技力の向上を図るためには、科学的根拠に基づく発掘・育成・強化が不可欠であることから、多くのアスリートが質の高いスポーツ医・科学、情報等によるサポートを受けられる環境の実現に対する支援に努める。

(4) 時代に即した進化

社会の変化や状況に応じて競技力の向上を図る必要があることから、DX、スポーツインテグリティの向上、競技団体のガバナンス強化・コンプライアンス徹底、多様性を認め合う環境づくり等を通じて関係団体等の連携・協力によるプレーヤーズセンタードの視点に立った体制強化の支援に努める。

3 計画の期間

本計画は、栃木県スポーツ推進計画2025の計画期間（2021年から2025年までの5年間）と整合を図り、令和5（2023）から令和7（2025）年までの3年間で計画期間とする。

第2章 これまでの取組の成果と課題

1 組織体制の整備・拡充

【具体的な取組・成果】

○平成26(2014)年5月に設置した対策本部を中心に、公益財団法人栃木県体育協会（現公益財団法人栃木県スポーツ協会、以下「県スポーツ協会」という。）や競技団体、学校体育関係団体等と緊密な連携を図りながら、選手強化に係る予算の充実及び有効な事業実施を通して競技力向上に取り組んだ。

○競技団体が行う強化計画作成に対する支援や競技団体の組織力を高めるための講習会を開催するなど、競技力向上対策を効果的に実施するために必要な組織の整備・充実並びに関係組織間の連携強化を図った。

育成期			充実期			完成期			
H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	
栃木県競技力向上対策本部の充実・強化									
			競技力向上事業を対策本部事業に一本化						とちぎ 国体
競技団体スキルアップ事業			強化計画推進事業		チームとちぎ育成強化事業に組入				
成年種別強化等検討部会の開催									

○平成27(2015)年10月に設置した栃木県障害者スポーツ選手等育成・強化委員会を中心に特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会や障害者団体、競技団体、特別支援学校等と緊密な連携を図りながら、選手強化に係る効果的な事業実施を通して選手の競技力向上に取り組んだ。

拡大期		育成期			強化期		
H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4
選手層の拡大、チーム設立等							とちぎ 大会
選手の底上げ、チーム力・個人技術等の育成				技術等のレベルアップ			

【今後の課題】

- ◇競技団体の健全な組織運営によるスポーツの価値向上
- ◇スポーツ関係諸団体との継続的な連携・協力による効果的な強化体制の再構築
- ◇両大会のレガシー継承・発展を目指す市町や県内競技団体との連携・協力体制の構築

2 選手の発掘・育成・強化

【具体的な取組・成果】

○競技団体が実施する強化事業に対して柔軟かつ戦略的に支援をしたほか、全国トップレベルの指導者等から指導を受ける機会を設け、本県競技力の向上に貢献した。

○成年種別はスポーツ専門員の配置や、就職支援による優秀な選手の確保のほか、有望選手・チームへの強化支援を通じて多数の入賞者を輩出した。

○少年種別は計画的なターゲットエイジの育成・強化や運動部活動拠点校への支援に加え、適性競技種目を見出すために新たな才能を発掘・育成する取組を行い、多数の入賞者を輩出した。

○女性アスリート特有の健康問題を予防・改善するために研修会を開催したほか、女性アスリートに対して血液検査から栄養指導等へ繋げ、女子種別の競技力向上に貢献した。

育成期			充実期			完成期		
H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4
ジュニアアスリート育成強化事業						ターゲットエイジ強化		
チームとちぎジュニア選手認定			中学生を追加					
			タレント発掘・育成事業					
			中学校・高等学校拠点校指定					
			ジュニアチーム・選手指定					
競技カランクアップ支援			チームとちぎ育成強化事業					
新規導入競技サポート事業								
アドバイザーコーチ招へい事業								
有望チーム指定								
						有望選手指定		
						ふるさと選手支援		チームとちぎ育成強化事業へ組入
						女性アスリート支援		
						とちぎアスリートキャリアサポートセンター開設		
						スポーツ専門員配置事業		

とちぎ
国体

○本県障害者スポーツの一層の振興を図るために策定した「栃木県障害者スポーツ選手等育成・強化基本計画」に基づき、団体競技チームの定着支援、強化指定選手の任命など、計画的に選手の育成・強化を図り障害者スポーツの振興に貢献した。

【今後の課題】

- ◇両大会を契機とした高い競技力の確保
- ◇競技団体等による強化事業の継続的实施
- ◇ジュニア選手に対する「発掘→育成→強化」まで続く競技団体の一貫指導体制の再構築
- ◇優れた才能を持つ児童の発掘・育成を踏まえた中・長期的な育成計画の構築
- ◇部活動の地域移行を見据えた地域クラブチーム等を考慮した強化システムづくり

3 指導者の養成・資質の向上

【具体的な取組・成果】

○強化指定コーチを指定し競技団体ごとの指導体制の整備を図り、競技団体の垣根を越えて「チームとちぎ」の強化ネットワークを構築したほか、最新かつ実践的な指導者向けの講習会や研修会の開催により指導者の資質向上を図った。

○学校部活動への指導者の適正配置及び教員採用試験におけるスポーツ特別採用枠で優秀な人材を教員として採用した。

育成期			充実期			完成期		
H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4
国体指導者養成事業						チームとちぎ育成強化事業に組替		
			強化指定コーチ認定					
			ジュニア指導者育成			戦略的指導者養成		
優秀指導者の確保と適正配置								

とちぎ
国体

○「栃木県障害者スポーツ選手等育成・強化基本計画」に基づき、練習会等に参加する指導者に

対し、競技団体やチームの専門性を生かした効果的な選手育成のために必要な講習会や研修会への参加支援等を行い、指導者の資質向上を図った。

【今後の課題】

- ◇両大会で監督を務めた指導者の後継者となる次世代を担う指導者の養成
- ◇指導者が少ない競技団体における指導者の確保
- ◇スポーツ専門員を含む両大会出場選手を指導者として活用した強化体制の再構築
- ◇女性アスリート特有の健康課題等に関する指導者等へのさらなる理解促進

4 競技力向上のための環境整備

【具体的な取組・成果】

- 国民体育大会で選手が最高のパフォーマンスを発揮できるようアスレティックトレーナー等を各競技会場に派遣したほか、とちぎスポーツ医科学センター（以下「TIS」という。）の利用促進を図ることで医・科学的知見のもと効率的・効果的な競技力向上に貢献した。
- 競技普及や選手育成強化のために必要と認められるスポーツ用具を整備したほか、国民体育大会の会場地となる施設を強化練習等で優先的に利用できるよう調整する取組により、選手・指導者が活動しやすい環境の整備を図った。

育成期			充実期			完成期		
H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4
スポーツ医科学サポート						とちぎ 国体		
TIS利用支援事業								
スポーツ用具整備								
スポーツ情報の発信								
戦力分析・データ収集等								
施設の優先利用								

- 「栃木県障害者スポーツ選手等育成・強化基本計画」に基づき、育成・強化に必要なスポーツ用具を整備したほか、練習等をサポートするため障害者スポーツボランティアとの連携を図り、選手・指導者が活動しやすい環境の整備を図った。

【今後の課題】

- ◇TISを活用した選手・指導者に対するサポートのより一層の充実
- ◇選手・指導者が活動しやすい競技環境づくり
- ◇両大会に向けて整備したスポーツ用具の使用に適した水準の維持・確保
- ◇障害者スポーツの裾野拡大及び積極的な社会参加機会の創出

第3章 栃木県の競技力向上のための具体的な取組

1 計画の目標

- 持続可能な競技力の向上を図っていくため、県内の競技団体におけるアスリート発掘・育成・強化システムの確立
- 国民体育（スポーツ）大会の総合成績における上位の維持
- オリンピック・パラリンピック競技大会に代表される各種国際大会等に本県ゆかりのアスリートを多数輩出

2 競技力向上のための4つの柱

上記の目標を達成するため、具体的に以下の方針のもと取り組むこととする。

I 「競技力の維持・組織運営体制の強化」

両大会のレガシーを生かして、高い競技力の確保と、県内競技団体の健全な組織運営及び関係組織間のより一層の連携を図る。

II 「次世代アスリートの発掘・育成・強化」

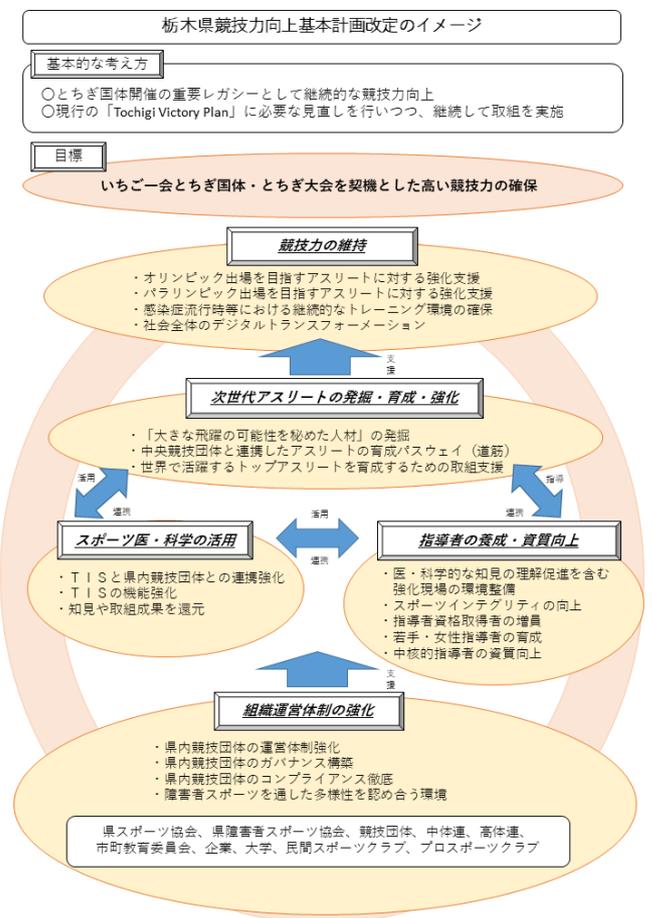
大きな可能性を秘めた次世代アスリートを発掘し、世界で活躍するアスリートの輩出を目指して育成・強化を図るとともに、将来を見据えた競技力の底上げを図る。

III 「指導者の養成・資質向上」

計画的な指導者の資質向上に加え、指導者資格取得者を増やすことで、持続可能な指導体制の構築を図る。

IV 「スポーツ医・科学の活用」

TIS等の関係機関と連携を図り、アスリートや指導者に対する競技力向上に有効な医・科学支援の質の向上及び支援対象範囲の拡大を図る。



3 具体的な取組

I 競技力の維持・組織運営体制の強化

(1) 競技団体の強化支援及び組織運営・指導体制への支援

両大会で高まった競技力の維持及び更なる向上を目指して、競技団体が実施する強化

事業の取組を支援するとともに、各競技団体が継続して競技力向上を推進する組織体制づくりを支援する。

(2) トップアスリートの確保及び強化支援

- ① 2024年パリオリンピック・パラリンピック、2026年ミラノ冬季オリンピック・パラリンピックへ本県ゆかりのアスリートを多数輩出することを目指す。
- ② 県内企業等に対して優秀な選手の受け入れやチーム設立等に向けた協力依頼を行い、トップアスリート等の県内定着を促進し、競技との両立を図れるよう支援する。
- ③ 本県競技力向上への貢献が期待でき、ジュニア選手等の育成・強化の指導に従事するアスリートの就職支援等を通じて、アスリートの活動支援並びに有望な次世代アスリートの輩出を目指す。

(3) スポーツ環境整備

- ① 女性アスリートの育成・強化に役立つデータや情報を選手・指導者・保護者等に提供することで、特有の健康障害を予防し、選手が試合等において最高のパフォーマンスを発揮できるよう支援する。
- ② 障害者がスポーツを実施しやすい環境の整備に努める。
- ③ デジタル技術の活用等により、継続的な強化事業の取組を行うことができる環境の整備に努める。
- ④ 特殊なスポーツ用具の整備に努め、競技及び練習環境の改善を図る。
- ⑤ 両大会の競技会場となった各市町が競技団体と連携して行う、地域に根ざしたスポーツクラブの育成やスポーツ教室等の事業を推進し、特色ある地域スポーツの普及・振興を図る。

(4) ガバナンス（統治能力）の強化とコンプライアンス（法令遵守）の徹底

県スポーツ協会等と連携し、必要に応じて競技団体の組織運営等に関する助言やスポーツインテグリティ（高潔性や健全性）を高める取組の情報提供など、競技団体の健全な組織運営を促進する。

(5) 対策本部と関係団体等との連携強化

対策本部を維持し、両大会のレガシーを生かした競技力向上事業を積極的に推進できるよう、競技団体及び関係団体と相互に連携し、協力体制の強化を図る。

II 次世代アスリートの発掘・育成・強化

(1) 次世代アスリートへの強化支援

- ① 世代の枠を超えて共に強化練習を実施するなど、両大会で培ったジュニア世代の発掘・育成・強化のノウハウを生かし、将来性豊かなジュニアアスリートの競技力向上

に取り組む競技団体を支援する。

- ② 両大会の成果を継承し、競技の特性や活動環境、学校運営の実情等に応じて高い競技力や他にない特色を持つ高校の有力な運動部が行う強化事業等を支援する。
- ③ 「学校部活動および新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、競技志向の選手が競技力向上に取り組む場を選択できるよう新たなスポーツ環境の整備に努める。

(2) とちぎ未来アスリートプロジェクト

- ① 将来、国民スポーツ大会や国際大会で活躍する選手を輩出するとともに、本県スポーツ界の次代を担う人材を養成することを目指し、優れた才能を持つ児童を発掘・育成し、その能力を最大限発揮できる競技を見つける機会を提供する。
- ② 国や中央競技団体等が実施する全国規模のタレント発掘事業に対策本部として積極的に参加し、関係団体との連携や最新情報を収集するとともに、競技適性を認められた選手が県内外のコーチから適切な指導を受けられるよう各競技団体への橋渡し及び助言を行う。

Ⅲ 指導者の養成・資質向上

(1) 各種研修会等の開催

- ① 県内の競技団体における中核的指導者を対象とし、最新の指導技術等を学ぶための各種研修会や競技の垣根を超えた交流の場を設けることで、県内指導者の資質向上を図るとともに、公認指導者資格の取得を推進し指導体制の充実を図る。
- ② 卓越した指導力を有する競技団体トップレベルのコーチ等を招へいして、最新の指導理論や方法等を学ぶことにより、若手指導者や女性指導者をはじめ多くの県内指導者がスキルアップできる機会を創出する。

(2) 優秀な指導者の確保及び配置

優れた競技経験・技術を有し指導者としても優れた手腕を発揮することが期待される選手をスポーツ指導員として活用し、効率的かつ効果的な配置により次世代アスリートの指導を中心に本県選手の強化を図る。

(3) スポーツインテグリティ（高潔性や健全性）の向上

競技力向上に加えてアスリート等の人間的成長を促すことができるよう、スポーツの価値を脅かす暴力やドーピング、不法行為等を行わない倫理観や規範意識を兼ね備えた指導者の養成を図る。

IV スポーツ医・科学の活用

(1) TISの活用

- ① 県内の競技団体への医・科学的側面からの支援をより一層促進し、効果的・効率的に競技力の向上を図ることができるよう、最先端の機器による測定データに基づく各種サポートの提供、メンタルトレーニングや栄養サポート等の利用に対する支援の充実を図る。
- ② TIS 開所以来国体強化指定選手等を対象として蓄積してきたデータや知見を活用し、県大会出場レベルや学校運動部活動の選手層までスポーツ医・科学支援の対象拡大を図る。
- ③ 女性アスリートが抱える悩みを解決できるよう相談窓口を充実させ、TIS 協力ドクターや TIS 協力栄養士と連携しサポートに努める。

(2) スポーツ医・科学分野の専門人材の活用

- ① 競技力向上事業や大会等にトレーナー等を派遣することで選手のコンディショニングサポートの充実を図る。
- ② スポーツ医・科学支援を担う人材に対して研修会等を実施し、資質向上を図るとともに各分野の専門人材の育成に努める。

年度	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)
計画推進	とちぎ国体 とちぎ大会 開催	I 競技力の維持・組織運営体制の強化 II 次世代アスリートの発掘・育成・強化 III 指導者の養成・資質向上 IV スポーツ医・科学の活用		
目標		●国民体育(スポーツ)大会での上位維持 ●各種国際大会等への多数の選手輩出	2024パリ オリンピック パラリンピック	2026ミラノ冬季 オリンピック パラリンピック
県	とちぎ未来創造プラン (R3~R7) ●いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を通じた人づくり			
教育委員会	とちぎ教育ビジョン (R3~R7) ●いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を契機としたスポーツの推進			
スポーツ 推進計画	とちぎスポーツ推進プラン (R3~R7) ●国民体育(スポーツ)大会・全国障害者スポーツ大会や 国際大会等で活躍する選手の育成 ○次世代アスリートの発掘・育成・強化 ○トップアスリートの強化・確保 ○競技力向上のための環境整備 ○安全でクリーンでフェアなスポーツの推進			

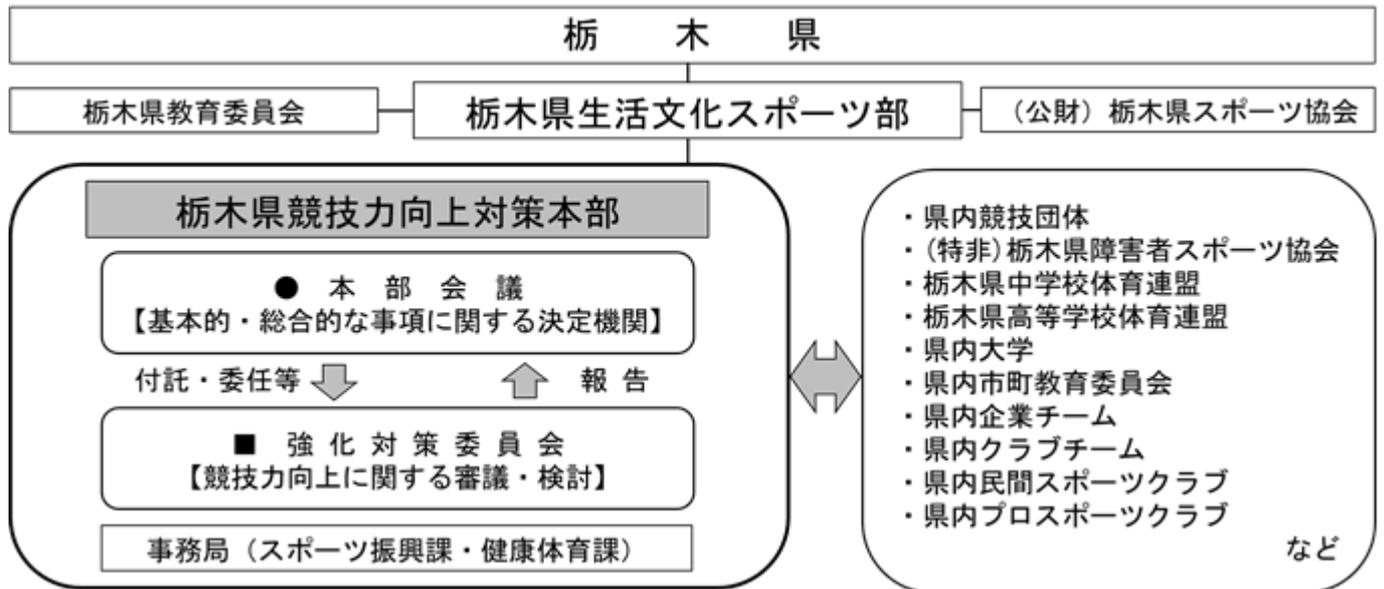
各種プラン・計画等の見直し

第4章 競技力向上基本計画の推進体制

1 推進体制

対策本部は、本計画に基づき、本県の競技力向上事業を計画的かつ着実に推進するため、県、市町、県スポーツ協会、競技団体、学校体育団体、大学、民間企業、産業・経済界及びクラブチームなどと緊密に連携・協力を図り、オールとちぎで競技力向上に取り組む。

栃木県競技力向上対策本部 組織図

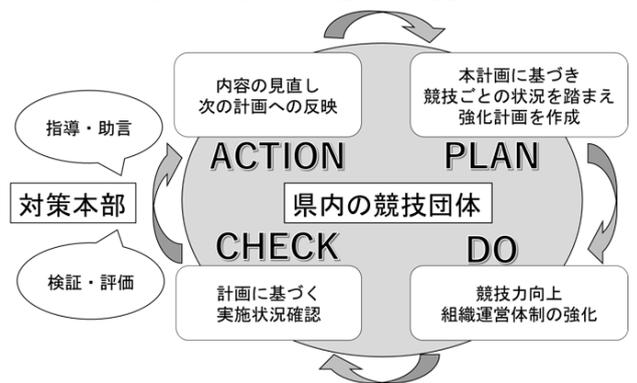


2 競技団体における強化の取組

県内の競技団体は、とちぎ国体まで本県アスリートや競技関係者が着実に取り組んできた努力の成果を貴重なレガシーとして確実に継承・発展させ、本計画に基づき、より一層の競技力向上や組織運営体制の強化に取り組む。

対策本部は、各競技団体における競技力向上対策の取組状況や活動内容等を検証・評価し、結果に基づき、県スポーツ協会と連携して、競技団体に指導・助言を行う。

競技団体における競技力向上基本計画の推進イメージ



【競技団体の取組状況等について検証・評価する主な内容】

- とちぎ国体に向けた取組の成果と今後の課題
- 競技ごとの状況を踏まえた目標（成績）と重点的に取り組むべき事項
- 中・長期的な普及・強化スケジュールと具体的な取組内容
- プレーヤーズセンターの視点 ほか